

2020年度大阪府予算案公表

教育予算が微増も依然過去最低水準

大阪府は2月18日、2020年度当初予算案を公表しました。2019年度当初予算と比較して、府の一般会計予算案総額が増える一方で、教育予算は削減が続いていましたが、今年度は微増になりました。しかし、前年比101%であり、過去最低水準に変わりはありません。(次ページの表参照)。

スマートスクール事業

1人1台端末などICTを活用するとする国の「GIGAスクール構想」を実現するために、府立学校のICT環境の整備と活用した事業を「スマートスクール事業」として実施し、今後の事業展開へ向けたモデル整備を行うとしています。そもそも国が「GIGAスクール構想」を強引に進める背景には、公教育への参入を目指す民間教育産業とともに、学校に「人材育成」を求める経済界の存在があります。コンピュータ端末を使うことが目的化すれば教師の負担増にもなりかねません。導入後のランニングコストも膨大になることが予想されます。アメリカでは「1人1台パソコンの導入」によって、教員不足をコンピュータで補う動きもあり、教師の専門性を奪うことにもつながりかねません。府高教は「教育の市場化」をゆるさないたたかいに全力をあげます。

施設の長寿命化(築70年)を推進

府立学校長寿命化(築70年)を推進し、維持・更新経費の軽減、平準化を図るとして高校49校、支援8校に18億3,889万円を配置しています。府立学校の校舎の老朽化は深刻で建て替えが急務です。トイレの改修が先延ばしになり、老朽化による多数の危険箇所を改修する予算も極めて不十分なままです。安全・安心な学校の環境づくりのために必要な予算はきちんと配置する必要があります。

教職員定数減、養護教諭複数配置9校減、技術職員12人退職不補充

高等学校の教員定数は7,537人で昨年より230人減、非常勤講師時数も微増していますが高齢者部分休業の増加に対処するものです。養護教諭複数配置では、昨年度の複数配置校のうち9校が1人配置になります。「就学支援金・奨学給付金」にかかる非常勤補助員の配置日数が削減されままで、事務職員の削減や、就学支援金業務が増加している中で極めて不当です。技術職員は退職後不補充で12人の定数減です。実習教員の定数上32人減は、配置基準より上回って予算を確保してきたため(実際にはこの32人の実習教員はいない)で、今回、配置基準より少ない定数の支援学校に移されますが、府立学校としては実習教員の定数の変更はありません。この度の障がい者選考の実習教員は定数外として配置されます。府高教は定数増など制度改善に向けたたたかいに引き続き全力をあげます。

旅費・学校管理費が微増

旅費は一人当たり換算31,050円で270円の微増となっていますが、運賃値上げに対応するもので、実質的には増加したとは言えません。府高教は、修学旅行や生徒指導、部活動などの教育活動に支障が出ないように、引き続き交渉の重点にして十分な旅費確保を要求します。学校管理費が今年度49億8千万円から51億4千万円へと1億6000万円増加していることは粘り強い要求が反映されたものですが、この間管理費が削減されてきた経過を考慮すると十分とは言えません。引き続き、労働環境・教育環境の改善充実を強く求めています。

旧・西淀川高校校地に新たに支援学校を整備

「知的障がい支援学校新校整備事業費」が新規に計上されています。2018年度末で閉校した府立西淀川高校の校舎を支援学校として活用、計画・整備をすすめ2023年度開校するとしています。

教育庁 2020年度当初予算案の概要 ()内は2019年度比

当初予算	大阪府一般会計	教育長予算案
2020年度	2兆6368億円	5380億円
2019年度	2兆5983億円	5316億円
前年比	385億円up	64億円up

府一般会計比 20.4% (2019年度 20.5%)

<旅費・手当等>

【教職員旅費】(年額) 1人当換算 31,050円 (+270円)

【報酬・賃金】

時間講師等報酬

時間講師	授業 1H	2,880円 (+20円)
産業医を兼ねる学校医	月額	63,860円 (+490円)
学校医・学校歯科医	月額	40,160円 (+310円)
学校薬剤師	月額	25,760円 (+200円)
産業医	月額	25,760円 (+200円)
非常勤補助員等賃金	6H/日額	5,830円 (+76円)

<府立高校関係の事業> ※ ()内は2019年度比

【主要事業】

府立学校スマートスクール推進事業費 163,936千円(新規)

- 全府立学校にGIGAスクール構想実現のための基盤整備(125,282千円)
ネットワーク機器、無線アクセスポイントの保守(整備経費は2019年度補正予算)
- 4つの取り組みに係る基盤整備(13,860千円)
回線増強費、大型提示装置整備費、タブレット端末保守費、ICT支援員費
- 4つの取り組みに係るモデル(ソフト)整備(24,764千円)
府立学校の4つの課題に合わせた5拠点を選定し、今後前項展開するICT基盤の有効活用に向けたモデル整備を行う。モデル…①日本語指導重点実施校、②大阪府高等学校教育支援センターの充実、③国内外で活躍する人材育成校、④知的障がい支援学校における就労支援の充実

府立学校施設長寿命化整備事業費 1,838,897千円(新規)

医療的ケア通学支援事業費 567,369千円(+542,112千円)

介護タクシー等に看護師等が同乗し、児童生徒の医療的ケアを実施、通学支援。校内看護師を拡充。対象…府立学校20校180人程度

いじめ虐待等防止対応支援体制構築事業費 276,674千円(新規)

- ①緊急事案発生時、要請に基づき学校に府の緊急支援チームを派遣。
- ②課題の大きい学校に対する支援人材を配置し、府からの直接の支援を実施する。
緊急支援チーム…SC、SSW、スクールロイヤー(弁護士)、アドバイザー(校長OB)で構成。

【その他の事業】

英語教育推進事業費 17,761 千円 (+3,245 千円)

外国語指導員等による語学指導充実費 481,223 千円 (+43,308 千円)

○外国人英語指導員の配置 [NET] 79 名

○外国人英語講師の派遣 [T-NET] 54 校

グローバルリーダーズハイスクール支援事業費 29,220 千円 (±0 円)

実業教育充実事業費 15,100 千円 (+1 千円)

長期入院生徒学習支援事業費 6,562 千円 (±216 千円)

府立高等学校キャリア教育体制整備事業費 2,277 千円 (新規)

就学支援金関連事業費 33,231,509 千円 41,398,300 千円 (+8,166,791 千円)

広報強化推進事業費 15,293 千円 15,443 千円 (+150 千円)

○「進学フェア」の開催

能勢高等学校再編整備事業費 7,379 千円 (+1 千円)

社会人等活用推進費 136,198 千円 133,230 千円 (▲2,968 千円)

知的障がいのある生徒の教育環境整備事業費 38,693 千円 (+494 千円)

○自立支援推進校 (9 校) (園芸・柴島・阿武野・西成・松原・枚方なぎさ・八尾翠翔・堺東・貝塚)

○共生推進校 (10 校) (枚岡樟風・千里青雲・芦間・久米田・北摂つばさ・信太・緑風冠・金剛・東住吉・今宮) 新規

高等学校通級指導実施費 1,190 千円 (▲1,268 千円)

○柴島、松原、大手前 (全)、岬

教育庁ハートフルオフィス推進事業費 18,135 千円 (新規)

日本語教育学校支援事業費 7,730 千円 (+77 千円)

SNS 活用相談体制調査研究事業費 29,499 千円 (+19,547 千円)

学校経営推進事業費 30,101 千円 (±0 円)

校長マネジメント推進事業費 208,668 千円 (+993 千円)

府立学校教育 ICT 化推進事業費 967,225 千円 (+17,502 千円)

教育総合情報ネットワーク事業費 110,490 千円 (+6,555 千円)

学校情報ネットワーク事業費 640,749 千円 (+1,531 千円)

部活動指導員配置事業費 53,263 千円 (+21,079 千円)

○府立学校 29 校 29 名 市町村 36 名補助 (2019 年度府立 20 校 20 名、市町村 24 名補助)

府立学校老朽化対策費 51,127 千円 (▲1,263,521 千円)

○支援学校・昇降機安全対策費、空調機更新工事など

学習環境改善事業費 2,785,121 千円 (+2,144,962 千円)

○トイレ改修 107 校

府立学校施設・設備改修費 814,911 千円 (▲30,756 千円)

○エレベータ設置工事・スロープ、手すりの設置、障がい者用トイレの設置

府立学校施設設備緊急改修事業費 1,850,857 千円 (▲1,910,359 千円)

○ブロック塀改修 高校 35 校 ○消防設備改修等 高校 17 校

府立学校体育館空気調節設備整備費 1,133,512 千円 (+436,813 千円)

高等学校教育環境改善事業費 805,127 千円 (+232,593 千円)

○空調機の更新

アスベスト対策事業費 275,571 千円 (+156,785 千円)

府立学校維持管理費 5,142,865 千円 (+161,612 千円)

○高校 134 校、支援 44 校・2 分校

<高等学校・教職員定数及び加配>

○条例定数 9,010人(▲284人)

校長	150人(▲1人)
教員	7,537人(▲230人)
養護教諭	228人(▲9人)
実習教員	381人(▲32人)
技術職員	190人(▲12人)
事務職員	524人(±0人)

○非常勤講師時数

13,045h(+102h)

○実習教員配置基準(昨年通り)

【配置数】

1 高等学校(園芸高校、農芸高校、港南造形高校、工科高校を除く)

(1) 普通科を置く全日制、定時制の課程の学校

全日制=2 定時制=1

(2) 通信制の課程の学校

通信制=2

(3) CSの課程の学校

CSⅠⅡ=2 CSⅢ=1

2 園芸高校、農芸高校、港南造形高校、工科高校

全日制(CSⅠⅡ)=1

定時制(CSⅢ)=1

3 総合学科、文理学科、総合科学科を置く全日制的課程の学校

別途調整加配=1(ただし、複数の学科を置く場合でも最大1)

※工業実習教員については、従前どおりの取扱いとする。

※障がいのある実習教員

学校の実情を勘案し、別途配置

○非常勤補助員の配置

1. 「学校事務繁忙期対応」(2019年度通り)

全日制・通信制「40日」

定時制「20日」

2. 「業務多忙化対策」

全日制「25日」(2019年度通り、2018年度は「40日」)

定時制・通信制「18日」(2019年度通り、2018年度は「28日」)

※今後、各校の業務改善の取り組み状況等を踏まえて追加配当

3. 「就学支援金・奨学給付金」

180~235日(2019年度通り、2018年度は190~250日)

○教員加配（別表参照）

	加配名	校数（校）	人員（人）	増減（人）
1	総合学科	33	251	+2
2	単位制	13	71	+2
3	普通科総合選択制	1	2	▲12
4	国際教養科・国際文化科・グローバル科	10	26	±0
5	文理学科・総合科学科	13	79	+8
6	音楽科・体育科	3	10	±0
7	通信制課程	1	6	±0
8	ガイダンス機能の充実	47	47	▲3
9	修業年限弾力化	2	5	±0
10	普通教科少人数指導	86	121	▲2
11	普通科設置専門コース等	40	41	▲3
12	中途退学対応	29	29	▲1
13	日本語指導の充実	8	13	+1
14	進路保障	25	25	▲1
15	日本語指導が必要な生徒選抜	7	7	±0
16	生徒指導	33	36	▲1
17	地域連携の充実	30	30	±0
18	自立支援推進	9	36	±0
19	通級指導	4	4	±0
20	研究校等	17	18	▲1
	（スーパーサイエンス）	（11）	（11）	（▲1）
	（スーパーグローバル）	（1）	（1）	（▲1）
	（スーパープロフェッショナル）	（1）	（1）	（±0）
	（ワールドワイドラーニング）	（1）	（1）	（+1）
	（中高一貫）	（3）	（4）	（±0）
21	学校経営推進	25	33	▲15
22	学力保障	6	6	±0
23	エンパワメントスクール	8	16	±0

○養護教諭複数配置（別表参照）

66校 66人（▲9人）

複数配置でなくなる学校

勝山*、豊中、吹田東、阿武野、緑風冠、柏原東、藤井寺工科（全）、長野北、りんくう翔南

*大阪わかばに別途配置

※教頭の複数配置校は後日公表されます